

幼保連携型認定こども園西神戸 YMCA 保育園 11月えんだより

「わたしの隣人とはだれですか。」

(ルカによる福音書第10章25～37節)

秋が深まり、山の景色が色づく季節となりました。寒暖の差が大きくなりましたが、風邪等に気をつけて健康に過ごしていきましょう。

さて、子ども達の素晴らしいところは沢山ありますが、そのうちの一つは、感情を表出し合うことの多さにあります。年齢や成長の過程で、手が出て、噛みつきもありますが、それも含めて、感情を出し合うことの大切さを最近は特に感じます。大人社会では感情を出さないことを良しとされるが多々ありますが、成長過程の子ども達は、今、心で感じたことを言葉に出し、相手に伝えていくことの繰り返しをしていくことが大切です。

今月の聖句は、ある法学者が、イエスに「何をしたら、永遠の命を受けることができるのか？」と尋ねたところ、「神様を愛して、隣人を愛しなさい」「それを実行しなさい」と言われました。そうしますと、法学者がイエスを試そうと「隣人とは誰ですか？」と尋ねたのです。そこで次の話を例えられました。「瀕死の中でさまよう一人のユダヤ人の横を、多くの人を通り過ぎていく中で、近づいてきたのは、敵対関係のサマリヤ人でした。絶望の淵に追いやられた彼に近づき、手当をして、宿につれて行き、宿賃を支払った。」という話でした。

子ども達は、今もこれからも、色々な人と出会うことでしょうし、様々な人との交わりがあることを望みます。人格の交わりを通して育つ子ども達にとって、狭い価値観や固定した観念ではなく、多様な考え方や見方をもって理解し合い、行動することが大切になると思います。子ども達が、成人して、家庭を持つ頃は、今までとは異なる価値観や人口が減少していく中で、価値を分かち合い、協力し、相利性をもって歩むことがますます必要とされることでしょう。

前述の「良きサマリヤ人」の例えで、イエスが本当に伝えようとしたことは、隣人についての狭い考えを捨てなさい、ということでした。この法学者は立派な人だったのですが、自分と同じように立派な人としが付き合いませんでした。自分が聖なる民、神に選ばれた民であることを誇りにし、それに相応しい人とだけ付き合おうとしました。彼にとっての隣人とは、このように非常に限られた人たちだけでした。「あなたも行って同じようにしなさい」というイエスの言葉は、実は、私たちにも与えられています。私たちは敵だと思われる人へも助けの手を差し伸べることが出来るのでしょうか。「隣人を愛する」という教えの中で、隣人とは自分の周りにいる人、自分から積極的に作ることで、敵すらも隣人に変えることが出来るのだと教えていただきました。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

11月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	ありがとう	ありがとう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 秋の実りを喜んで味わう * 保育者の祈る姿を通して、思いを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> * 秋の実りに感謝し、あじわう * いろいろな人の働きを心にとめる * 気持ちや考えを伝え合い、分かち合いながら友だちと過ごす
讃美歌	おほしがひかる	あなたの平和の 聖歌集増補版1